網走湾で上位蜃気楼の常識を覆す

～その２～

北海道・東北蜃気楼研究会　星弘之

1.はじめに

上位蜃気楼を見るときの常識となっている『蜃気楼を見るなら海岸付近で』と言われてきたが、網走湾で 2016 年からの観測で標高約 22~95m でも上位蜃気楼が見えた実績がある。

2024 年 3 月 28 日に流氷館(網走)標高約 200m より 80km 離れた知床半島方向に上位蜃気楼を観測・撮影したことを昨年発表した。

同日には能取岬（60m)、 二ツ岩付近海岸(5m)、鱒浦 P 後方高台(30m)他２か所に於いても観測・撮影したので網走湾内はどの様な状況だったのかを撮影したものを使い発表する。

２.標高約 200m よりの撮影状況と上位蜃気楼

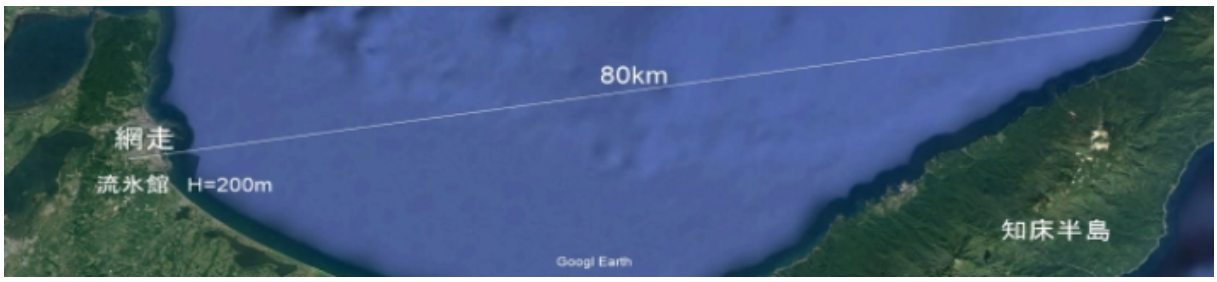

図 1

図 2　2024/03/28 上位蜃気楼

図 3　2020/03/29 上位蜃気楼

図 2 は海面付近上部に二本の白い線があるが過去に撮影したものと同等の形状なので上位蜃気楼と判断

３.観測・撮影地

観察・撮影順序　能取岬→二ツ岩→流氷館→鱒浦 P 高台→峰浜→オシンコシン P

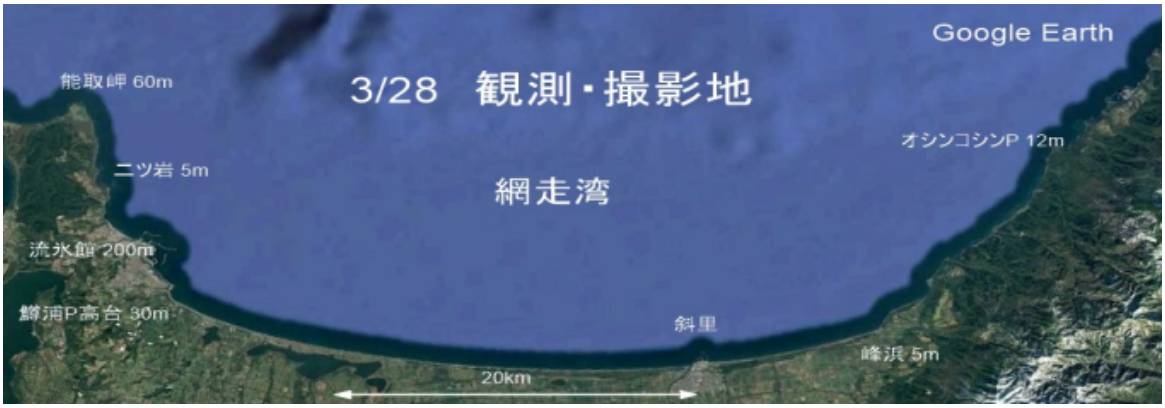

図 4

4.能取岬(60m)

図 5

図 6

5.二ツ岩(5m)

図 7

図 8

6.鱒浦 P 高台(30m)

図 9

図 10

7.峰浜(4m)

図 11

図 12

8.まとめ

2024 年 3 月 28 日に上位蜃気楼は標高 200m 程度のところからでも見えることが分かった。さらに同時刻ではないが 4、5、30、60m の高さでも見え、今までの常識を覆す結果となった。

上位蜃気楼を見たいと思うと海岸線を中心に対岸の構造物の変化を素早く見つけ大きく変化することを期待し待つというのが一般的だろう。対岸の風景ばかりでなく、海面の変化にも注意を払い観測する、更により倍率の高いレンズを使うことで、より遠くの現象も見えてくる。

常識を離れ、見方を変えると新しい蜃気楼が見えてくる。蜃気楼は私たちが想像する以上に奥が深く、分かっているのはごく僅かで未知なる部分がほとんどかも知れない。未知なる部分の一部でもこの目で見てみたい。